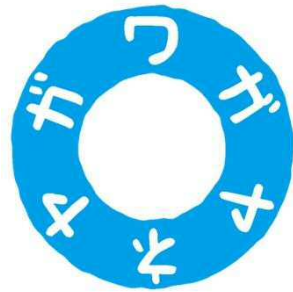


# 令和2年度 寝屋川市の財務書類（統一的な基準）



寝屋川市 財務部財政課



# 目次

統一的な基準による地方公会計制度について	1
統一的な基準による地方公会計制度における財務書類	2
寝屋川市の貸借対照表	3
寝屋川市の行政コスト計算書	5
寝屋川市の純資産変動計算書	7
寝屋川市の資金収支計算書	9
財務書類から見えてくる寝屋川市の状況	11
一般会計等の財務書類	17
注記	21
附属明細書	28

## 統一的な基準による地方公会計

「公会計」とは、国や市役所などで行われている会計のことを言います。一方、民間企業で行われている会計は企業会計と言います。

### これまでの公会計（平成27年度決算まで）

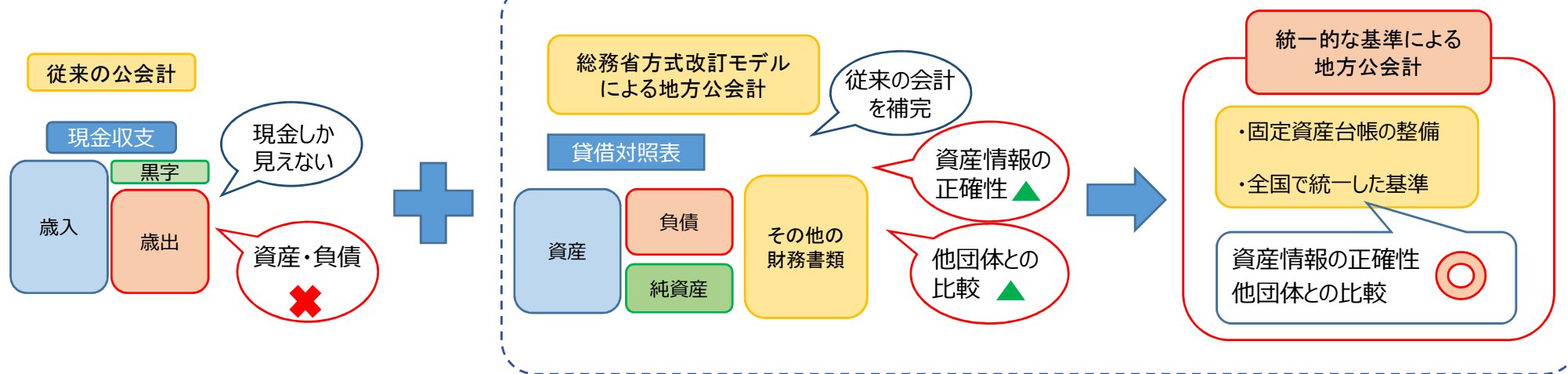
国や市役所などの会計は、現金収支に着目した単式簿記が採用されています。しかし、単式簿記は発生主義会計の複式簿記を採用する企業会計と比べ、過去から積み上げた資産や負債などの状況を把握できないこと、また減価償却や引当金といった会計手続きの概念がないといった弱点がありました。

その弱点を補完するため、寝屋川市においても発生主義会計の概念を取り入れた財務書類を総務省が示す「**総務省方式改訂モデル**」で作成・公表していました。

### 現在の公会計（統一的な基準）（平成28年度決算から）

しかし、総務省が示すモデルは複数あり、他団体との比較ができない等の問題が生じていたため、総務省は平成27年1月に固定資産台帳の整備や複式簿記の導入を前提とした「統一的な基準による地方公会計マニュアル」を公表し、すべての地方公共団体に対して、平成30年3月までに「**統一的な基準に基づく地方公会計**」を導入するよう要請しました。そこで市では、平成28年度決算から、「統一的な基準に基づく地方公会計」を導入し、財務書類を作成・公表することとしました。

全国で統一した基準により財務書類を作成することで、現金主義会計である従来の公会計が抱える弱点を補完するとともに、他団体との比較可能性の確保や、より精緻な資産・負債情報の整備により、よりわかりやすい財政情報を市民のみなさんに提供することが可能となり、また分析結果等を財政運営に活用することも可能となりました。



Q. 財務書類って何？

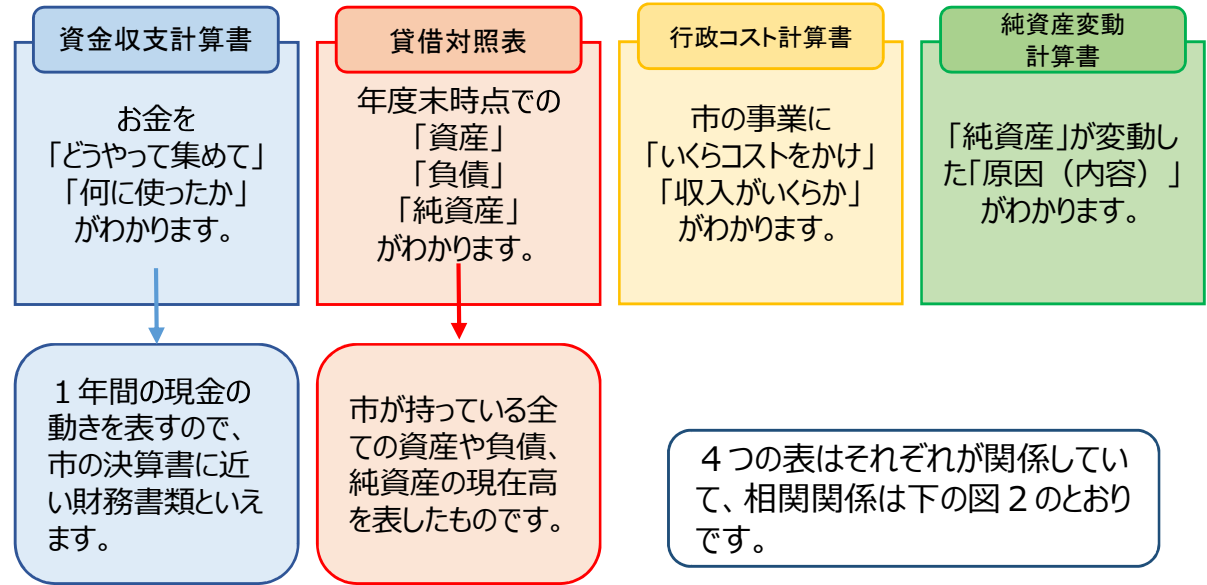
A. 財務書類は、資産や負債などの状況、コストやその財源の状況といった財務状況を一覽でわかりやすく、市民のみなさまに開示する観点から、企業会計の考え方や手法（発生主義、複式簿記）を用いて作成する書類です。

財務書類は、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書の4つの表で構成されています。

・発生主義

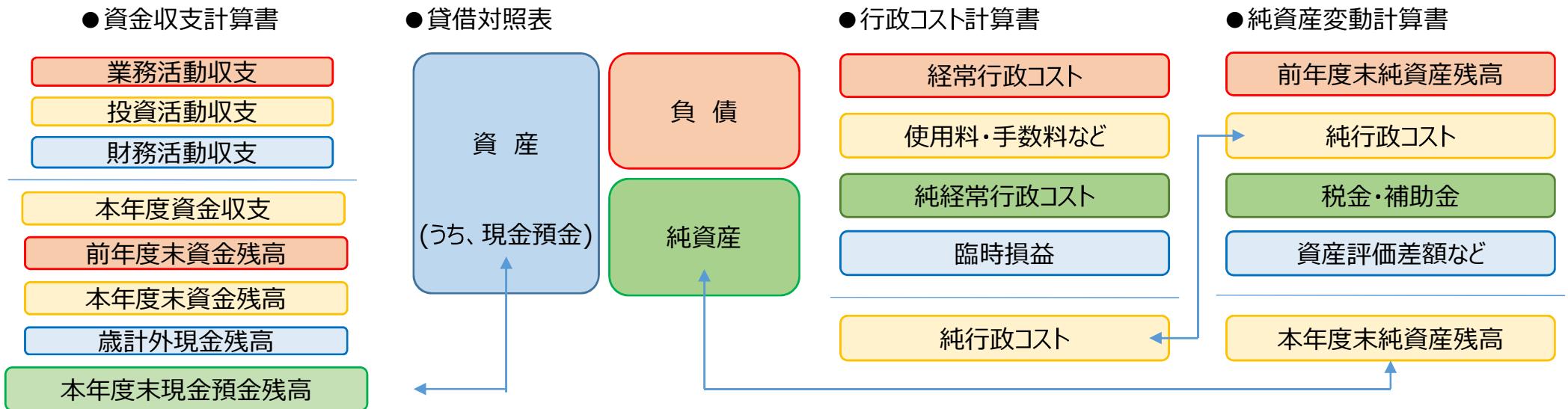
実際の現金の収入や支出に関係なく、事象の発生または変化に基づき、その時点で収入またはコストとして認識し、計上するもの。

図1. 財務書類4表の概要



4つの表はそれぞれが関係していて、相関関係は下の図2のとおりです。

図2. 4表の関係





寝屋川市役所



寝屋川駅前線

### 資産の部

- 固定資産
  - ・事業用資産
  - ・インフラ資産
  - ・その他

土地、  
建物、  
物品など

- 流動資産
  - ・現金預金
  - ・未収金
  - ・その他

1年以内  
に動きの  
ある資産

### 負債の部

- 固定負債
  - ・地方債
  - ・その他
- 流動負債
  - ・1年以内に返済する  
地方債
  - ・その他

将来世代の  
負担

### 純資産の部

- 純資産

これまでの  
世代の負担

Q. どうやってみるの？

A. 左側が**資産**を表し、右側が資産を得るための資金の調達方法（**負債**と**純資産**）を表します。また、**負債**はこれから先、支払う義務のある金額で、**純資産**はこれまでの世代が支払ってきた金額を表しています。

この負債が資産を上回り、「資産」-「負債」である純資産がマイナスになると、いわゆる「債務超過」となり、不健全な財政状況であることを意味しますが、本市では資産が負債を大きく上回っていることから、貸借対照表上では健全な財政状況であると言えます。

Q. 事業用資産、インフラ資産って  
どういうもの？

A. 事業用資産とは、「市役所庁舎」や「学校」などの、市が事業を行うための資産のことです。

インフラ資産は、「道路」、「公園」など、市民の社会生活の基盤となる資産のことです。

Q. 貸借対照表で  
なにがわかるの？

A. 市が、現在どれだけの資産を所有し、また、その資産がどのような財源で賄われているか、将来の世代の負担がどれだけあるかなどがわかります。

寝屋川市の貸借対照表（令和3年3月31日時点）

科目	R2	R1	R2-R1	科目	R2	R1	R2-R1
資産の部				負債の部			
○ 固定資産	2,105億8千万円	2,078億7千万円	27億1千万円	○ 固定負債	628億4千万円	636億1千万円	△7億7千万円
・事業用資産	940億2千万円	946億6千万円	△6億4千万円	・地方債	561億円	563億6千万円	△2億6千万円
・インフラ資産	989億2千万円	979億2千万円	10億円	・その他	67億4千万円	72億5千万円	△5億1千万円
・その他	176億4千万円	152億8千万円	23億6千万円	○ 流動負債	70億4千万円	64億6千万円	5億8千万円
○ 流動資産	168億6千万円	136億2千万円	32億4千万円	・1年以内に返済 する地方債	59億5千万円	53億5千万円	6億円
・現金預金	20億9千万円	22億1千万円	△1億2千万円	・その他	10億9千万円	11億円	△1千万円
・未収金	5億7千万円	4億8千万円	9千万円	負債合計	698億8千万円	700億6千万円	△1億8千万円
・その他	142億1千万円	109億4千万円	32億7千万円	純資産の部			
				純資産	1,575億7千万円	1,514億2千万円	61億5千万円
				純資産合計	1,575億7千万円	1,514億2千万円	61億5千万円
資産合計	2,274億5千万円	2,214億9千万円	59億6千万円	負債及び純資産合計	2,274億5千万円	2,214億9千万円	59億6千万円

※表示単位未満を四捨五入しているため、各項目の数値と合計額等が合わない場合があります。

令和2年度の寝屋川市の貸借対照表を見てみましょう。

市が持っている**資産**は全部で2,274億4千万円。

資産調達の財源として、将来返済する地方債などの**負債**が698億8千万円、これまでの世代が負担した**純資産**が1,575億7千万円となっています。

<主な増加理由>

固定資産：都市計画道路対馬江大利線の整備に向けた用地取得などを行ったためです。

流動資産：将来世代の負担軽減のため、基金を積み立てたためです。

<主な減少理由>

負債：職員の退職手当引当金などが減少したためです。

市民一人当たりの  
資産額  
約99万円

市民一人当たりの  
負債額  
約30万4千円

※令和3年3月31日時点の寝屋川市の人口 229,654人

**1. 人にかかるコスト**

(職員の給料や議員の報酬など)

**2. 物にかかるコスト**

(消耗品や委託料、建物の維持管理や減価償却費など)

**3. 社会保障費などのコスト**

(障害福祉サービスや生活保護、医療費助成などの社会保障給付、各種団体に対する補助金など)

**4. その他のコスト**

(支払利息など)

Q. 行政コスト計算書ってなに？

A. 行政コスト計算書は福祉や教育などの行政サービスを行うために必要なコスト（費用）を計算した一覧表で、道路や公共施設などの整備にかかるものを除いた行政サービスに使った1年間の費用を集計したものです。

この表により、何にいくらのコストがかかったかがわかります。

Q. 減価償却費ってなに？

A. 建物などは、長く使うとその価値がだんだん減少していきます。会計的にも一定期間にわたってその価値を減少させていきますが、これを減価償却と呼んでおり、それをコストとして計上したものが「**減価償却費**」です。

経常行政コスト……①
使用料・手数料などの利用者負担
経常収益……②
純経常行政コスト (①-②) ……A
臨時損益……B
純行政コスト (A + B)



科目	R2	R1	R2 - R1
1 人にかかるコスト 職員の給与や議員の報酬など	114億9千万円	107億5千万円	7億4千万円
2 物にかかるコスト 消耗品や委託料、建物の維持管理など	156億4千万円	141億3千万円	15億1千万円
3 社会保障費などのコスト 障害福祉サービスや生活保護など	761億3千万円	515億8千万円	245億5千万円
4 その他のコスト 地方債の利子など	7億8千万円	8億5千万円	△7千万円
経常行政コスト	1,040億5千万円	773億1千万円	267億4千万円
使用料・手数料などの利用者負担	54億3千万円	53億4千万円	9千万円
経常収益	54億3千万円	53億4千万円	9千万円
純経常行政コスト	986億1千万円	719億7千万円	266億4千万円
臨時損益	△2千万円	△4千万円	2千万円
純行政コスト	985億9千万円	719億2千万円	266億7千万円

※表示単位未満を四捨五入しているため、各項目の数値と合計額等が合わない場合があります。

市民一人あたりの純行政コスト 42万9,300円

Q. どんなサービスにコストがかかっているの？

A. 上の表を見ると、「**社会保障費などのコスト**」が最も多くかかっていることがわかります。このなかでも、障害福祉サービスや生活保護などの扶助費に多くのコストがかかっています。

次に、施設の維持補修費などの「**物にかかるコスト**」が多くなっていますが、この中には現金支出を伴わないコストとして、「**減価償却費**」が計上されています。

令和2年度の寝屋川市の行政コスト計算書を見てみましょう。

1年間の行政サービスを提供するためにかったコストは1,040億5千万円で、使用料・手数料などの利用者の負担を差し引いた純経常行政コストは986億1千万円となっています。

また、資産の売却などの臨時的なコストと収入を加味した**純行政コストは985億9千万円**となっています。

前年度と比較すると、物にかかるコスト及び社会保障費などのコストが増加したため、純行政コストは増加しました。

前年度末純資産残高・・・A	
純行政コスト (△) ……①	
財源	税収等・国府補助金など…②
本年度差額 (① + ②) ……B	
その他の変動…C	
本年度末純資産残高 (A + B + C)	

行政コスト計算書と一致！  
(ただし、ここではマイナス表示)

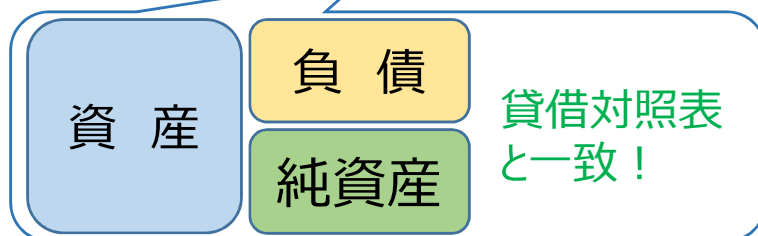
経常行政コスト

使用料・手数料など

純経常行政コスト

臨時損益

純行政コスト



Q. 純資産変動計算書ってなに？

A. 「純資産」とは、道路や公共施設などの資産の取得のために、これまでの世代が負担したもので、**将来返済する必要がないもの**です。

「純資産」 = 「資産」 - 「負債」

この表は、その純資産が1年間でどのように変動したかを示しています。

Q. この表から、どんなことがわかるの？

A. 「本年度差額」がプラスなのかマイナスなのかを見ます。  
「本年度差額」がプラスになっていれば、当年度の行政サービスの提供にかかったコスト（純行政コスト）が当年度の財源（税収等、国府補助金）で十分に賄えたということになり、将来へ負担を先送りしない財政運営ができたということがわかります。

科目	R2	R1	R2 - R1
前年度末純資産残高	1,514億8千万円	1,473億6千万円	41億2千万円
純行政コスト（△）	985億9千万円	719億2千万円	266億7千万円
財源	1,047億6千万円	758億3千万円	289億3千万円
税収等	487億7千万円	479億6千万円	8億1千万円
国府補助金	559億8千万円	278億7千万円	281億2千万円
本年度差額	61億7千万円	39億1千万円	22億6千万円
その他の変動	△8千万円	1億6千万円	△2億4千万円
本年度末純資産残高	1,575億7千万円	1,514億2千万円	61億4千万円

※表示単位未満を四捨五入しているため、各項目の数値と合計額等が合わない場合があります。

※財務書類を作成するシステムが変更となったことに伴い、有形固定資産の減価償却方法が定額法（日割り）から定額法（月割り）に変更となりました。そのため、令和2年度の前年度末純資産残高と令和元年度の本年度末純資産残高について一致せず、6千万円増加しています。

### 令和2年度の寝屋川市の純資産変動計算書を見てみましょう。

令和2年度の純行政コスト985億9千万円に対して財源（税収等、国府補助金）は1,047億6千万円ですので「本年度差額」は61億7千万円のプラスとなっています。当年度の行政サービスの提供にかかったコスト（純行政コスト）が当年度の財源（税収等、国府補助金）で十分に賄えたということになり、将来へ負担を先送りしない財政運営ができたということがわかります。

この「本年度差額」のプラス61億7千万円等により、令和2年度の純資産は61億4千万円増加し、令和2年度純資産残高は1,575億7千万円となりました。（貸借対照表の純資産合計と一致します）

家計にたとえてみると

業務活動	支出	人件費 物件費 社会保障費など その他
	収入	市税など 国や大阪府からの補助金 その他
	【業務活動の収支】……①	
投資活動	支出	道路や公共施設などの整備費 基金への積み立て その他
	収入	国や大阪府からの補助金 基金の取り崩し その他
	【投資活動の収支】……②	
財務活動	支出	地方債の返済 その他
	収入	地方債の発行 その他
	【財務活動の収支】……③	
本年度資金収支額 (① + ② + ③) …… A		
前年度末資金残高 …… B		
本年度末資金残高 (A + B)		

継続的な収入・支出  
食費、衣料、医療費などの支出

給料や年金などの収入

投資関係の収入・支出  
家の建築、リフォームなどの支出

家の建築、リフォームなどへの  
公的補助や定期預金の取崩し

借入金関係の収入・支出  
家や車のローン返済

銀行からのローン借入

一時的に預かる保証金などの  
公金ではないもの。

貸借対照表の  
「現金預金」と一致！

本年度末  
資金残高 + 本年度末  
歳計外現金残高 = 本年度末  
資金預金残高

Q. 資金収支計算書ってなに？

A. 資金収支計算書は1年間の現金の出入りを下記のような性質別に区分し、どのような活動に資金を必要とし、その資金をどのように賄ったかを示しています。

【業務活動】…行政サービスを行う中で毎年度継続的に収入・支出されるもの。

【投資活動】…公共施設などの整備や投資・貸付金などの収入・支出。

【財務活動】…地方債などの外部からの借入や、その返済などの収入・支出。

わかりやすく家計に置き換えると左のとおりになります。

科目	R2	R1	R2 - R1
業務活動収支			
行政サービスにかかる収支	81億7千万円	58億9千万円	22億7千万円
投資活動収支			
公共施設の整備などにかかる収支	△86億4千万円	53億円	△33億5千万円
財務活動収支			
地方債の借入や返済にかかる収支	3億5千万円	△3億8千万円	7億3千万円
本年度資金収支額	△1億3千万円	2億1千万円	△3億4千万円
前年度末資金残高	19億2千万円	17億1千万円	2億1千万円
本年度末資金残高	17億9千万円	19億2千万円	△1億3千万円
本年度末歳計外現金残高	2億9千万円	2億8千万円	1千万円
本年度末現金預金残高	20億9千万円	22億1千万円	△1億2千万円

※表示単位未満を四捨五入しているため、各項目の数値と合計額等が合わない場合があります。

**令和2年度の寝屋川市の資金収支計算書を見てみましょう。**

1年間の活動内容別の現金の増減と残高を示します。

令和2年度の行政運営にかかる資金収支は、公債費支払額の減少に伴い、財務活動収支が黒字となっています。本年度資金収支額は**1億2千万円の資金減**となっています。

## 財務書類から見える寝屋川市の状況（持続可能性）

財務書類の個々の数値を見ても、それが何を意味しているのか、わかりづらいものがあります。ここからは、財務書類のデータをいろいろな視点から指標を使って分析し、今、寝屋川市がどのような状況であるのかを見ていきます。

### 財政に持続可能性（健全性）はあるの？

#### 1. 基礎的財政収支（プライマリーバランス）

説明	地方債などの元金・利子返済額を除いた支出と、地方債発行などの借金による収入を除いた収入のバランスを見るもので、収支がプラスの場合は、経費が借金に頼らないで、税金などの収入で賄われていることを表します。
計算式	資金収支計算書上の業務活動収支（支払利息を除く）＋投資活動収支（基金積立金支出及び基金取崩収入を除く）

経年比較（3ヶ年）		他団体比較（令和2年度数値）		分析
平成30年度	3,826百万円	寝屋川市	5,637百万円	
令和元年度	4,057百万円	府内都市平均	2,145百万円	
令和2年度	5,637百万円	類似団体平均	638百万円	

府内都市、類似団体平均はともに黒字となっています。  
子育てリフレッシュ館や新ごみ処理施設の建設事業に伴い、公共施設の整備に係る支出が多額であったことなどにより、一時的に赤字となっていましたが、平成30年度以降は黒字となっています。

※各指標の計算式については、総務省の研究会による「地方公会計の活用の促進に関する研究会報告書」に基づいています（一部を除く）。

※他団体の指標については、各団体において作成・公表されているデータを元に算出しており、府内都市平均は31団体中22団体、類似団体平均は60団体中45団体の平均値となっています（一部総務省集計分を除く）。

# 財務書類から見える寝屋川市の状況（持続可能性）

## 財政に持続可能性（健全性）はあるの？

### 2. 債務償還比率（%）

説明	<p>充当可能な基金などを全て市が抱えている地方債や引当金などの実質債務に充てた場合に、経常的に確保できる資金で返済する比率を見ることで、債務償還能力を測ります。債務償還比率が低いほど、債務償還能力が高いことを表します。</p>
計算式	$\{ (将来負担額 - 充当可能財源) \div (経常一般財源等 (歳入) 等 - 経常経費充当財源等) \} \times 100\%$

経年比較（3ヶ年）		他団体比較（令和2年度数値）		分析	
平成30年度	418.6%	寝屋川市	283.2%		<p>市債の発行抑制や職員数の適正化により、将来負担額が抑制されていることに加え、計画的に基金へ積立していることにより、比率が減少しました。また、府内や類似団体平均を下回っており、債務償還能力は他市よりも比較して高いと考えられます。</p>
令和元年度	371.6%	府内平均	536.8%		
令和2年度	283.2%	類似団体平均	647.4%		

### まとめ（持続可能性）

平成30年度以降、基礎的財政収支は黒字となっています。債務償還比率（%）についても健全な数値となっていますので、今後も計画的な基金への積立を行うとともに、地方債の発行を必要最小限に抑制することにより、持続可能な財政運営に取り組んでいきます。

将来世代と現役世代との負担分担は適切なの？

1. 純資産比率

説明	これまで蓄積してきた資産が、これまでの世代による負担なのか、あるいは、将来世代への負担となっているのを見ることができます。この比率が高いほど、これまでの世代の負担によって資産を取得してきたことになります。
計算式	純資産 ÷ 資産合計

経年比較（3ヶ年）		他団体比較（令和2年度数値）		分析
平成30年度	67.7%	寝屋川市	69.3%	
令和元年度	68.4%	府内都市平均	74.2%	
令和2年度	69.3%	類似団体平均	69.9%	

新ごみ処理施設などの大規模な建設事業や、基金の積立てにより、資産は増加しているものの、市債の発行抑制等の取組により、将来世代の負担を抑制したことに伴い、純資産が増加した結果、純資産比率は昨年度より増加しています。また、類似団体とは同程度の水準ですが、府内都市よりも低くなっています。引き続き、将来世代の負担軽減の取組を進めていく必要があるものと考えられます。



# 財務書類から見てくる寝屋川市の状況（世代間公平性）

将来世代と現役世代との負担分担は適切なの？

## 2. 社会資本等形成の世代間負担比率

説明	これまでに整備してきた公共資産のうち、どれくらい将来世代が負担する負債が残っているかを見ることができます。この比率が高いほど、将来世代の負担が大きいこととなります。
計算式	地方債残高（臨時財政対策債等の特例地方債を除く） ÷ 有形・無形固定資産合計

経年比較（3ヶ年）		他団体比較（令和2年度数値）		分析
平成30年度	14.3%	寝屋川市	13.5%	
令和元年度	13.4%	府内都市平均	11.2%	
令和2年度	13.5%	類似団体平均	19.2%	

将来世代の負担割合は昨年度と同水準となっています。また、類似団体の平均は下回っているものの、府内都市平均を上回っており、引き続き、将来世代の負担軽減の取組を進めていく必要があるものと考えられます。

### まとめ（世代間公平性）

資産全体の取得については、将来世代の負担と比べ、これまでの世代による負担が多くなっていますが、他団体と比較すると将来世代の負担割合が低い状態となっているため、引き続き、基金への計画的な積立や市債残高の抑制など、将来負担軽減に資する取組を進めていく必要があります。また、道路や公園などの公共資産については、将来世代も引き続き利用することから、今後も類似団体などとの比較を参考に、公平性の観点に基づき、適切な負担割合となるよう検討していく必要があります。

# 財務書類から見える寝屋川市の状況（資産形成度）

公共施設などの資産の現状はどうなっているの？

## 1. 有形固定資産減価償却率

説明	有形固定資産のうち、土地以外の償却資産（建物や工作物など）の取得価額等に対する減価償却累計額の割合を見ることで、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているかを把握することができます。
計算式	減価償却累計額 ÷ 償却資産の取得原価

経年比較（3ヶ年）		他団体比較（令和2年度数値）		分析	
平成30年度	65.7%	寝屋川市	68.8%		子育てリフレッシュ館や新ごみ処理施設の建設事業により、一旦減少していたものの、今年度も上昇傾向にあり、また、府内都市や類似団体の平均を上回っていることから、他市よりも公共施設等の老朽化が進んでいると考えられます。
令和元年度	67.3%	府内平均	64.3%		
令和2年度	68.8%	類似団体平均	63.5%		

# 財務書類から見える寝屋川市の状況（資産形成度）

## 公共施設などの資産の現状はどうなっているの？

### 2. 有形固定資産対保全関連費支出率

説明	有形固定資産のうち、土地以外の償却資産（建物や工作物など）の取得価額等に対する維持補修費や施設等整備費の割合を見ることで、公共施設等にどの程度維持補修を行ったかを把握することが出来ます。 耐用年数が50年～60年、更新・維持補修費が標準的にイニシャルコストの4倍～5倍かかるとし、本市では6%～10%を目安と考えています。		
計算式	$(\text{維持補修費} + \text{公共施設等整備費支出}) \div \text{償却資産の取得原価}$		
経年比較（3ヶ年）	他団体比較（令和2年度数値）		
平成30年度	2.1%	寝屋川市	2.6%
令和元年度	2.1%	府内都市平均	2.9%
令和2年度	2.6%	類似団体平均	2.6%
		分析	アドバンスねやがわ1号館の購入に伴い、公共施設の整備に係る支出が増加した結果、昨年度より上昇しています。 また、類似団体とは同程度の水準ですが、府内都市平均及び本市の目安とする率を下回っています。

### まとめ（資産形成度）

有形固定資産減価償却率から、本市の公共施設などの資産は取得からある程度の期間を経過し、老朽化が進行していることがわかります。  
また、有形固定資産対保全関連費支出率からも、公共施設などの資産に対する保全関連費の支出が目安の6%～10%より少ないことから、公共施設などが老朽化していることも踏まえ、今後計画的に維持更新のための投資などを進めていく必要があります。

## 注記

### 1 重要な会計方針

#### (1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

##### ア 昭和59年度以前に取得したもの……………再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

##### イ 昭和60年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

##### ② 無形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

#### (2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

##### ① 満期保有目的有価証券

該当なし

##### ② 満期保有目的以外の有価証券

該当なし

##### ③ 出資金

##### ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格

(売却原価は移動平均法により算定)

##### イ 市場価格のないもの……………取得原価

#### (3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

該当なし

#### (4) 有形固定資産等の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 24年～50年

工作物 10年～50年

物品 3年～20年

##### ② 無形固定資産（リース資産を除きます。）……………定額法

(ソフトウェアについては、庁内における見込利用期間(5年)に基づく定額法によっています。)

③ リース資産

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

……………自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

イ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

……………リース期間を耐用年数とし、残存価値をゼロとする定額法

(5) 引当金の計上基準及び算定方法

① 投資損失引当金

市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体(会計)に対するものについて、実質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額との差額を計上しています。(令和2年度は計上なし)

② 徴収不能引当金

長期延滞債権、未収金、貸付金及び基金貸付金の徴収不能又は回収不能に備えるため、過去5年間の不納欠損実積率等により、徴収不能見込額又は回収不能見込額を計上しています。

③ 退職手当引当金

職員に対する退職手当の支給に備えるため、財務諸表作成基準日において在職する職員が自己都合により退職するとした場合の退職手当要支給額を公営企業会計との在職年数按分により計上しています。

④ 損失補償等引当金

履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に規定する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上しています。

⑤ 賞与等引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、翌年度6月支給予定の期末勤勉手当の支給見込額等のうち、財務諸表作成基準日において発生していると認められる金額(12月から3月までの4か月分)を計上しています。

(6) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引(リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。)

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

イ ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7) 資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）

なお、現金には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(8) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

① 物品及びソフトウェアの計上基準

物品については、取得価額又は見積価格が 50 万円（美術品は 300 万円）以上の場合に資産として計上しています。

ソフトウェアについても、物品の取扱いに準じます。

② 資本的支出と修繕費の区分基準

資本的支出と修繕費の区分基準については、金額で 60 万円以上であるとき、修繕に係る支出が当該償却資産の資産価値を高め、またはその耐久性を増すこととなると認められるかを判断し、資産として処理しています。

## 2 重要な会計方針の変更等

(1) 会計方針の変更

該当なし

(2) 表示方法の変更

該当なし

(3) 資金収支計算書における資金の範囲の変更

該当なし

## 3 重要な後発事象

(1) 主要な業務の改廃

該当なし

(2) 組織・機構の大幅な変更

該当なし

(3) 地方財政制度の大幅な改正

該当なし

(4) 重大な災害等の発生

令和 3 年度において、新型コロナウイルス感染症対策として、緊急支援事業等を実施することに

に伴い、当該事業に係る費用及びその財源となる国庫支出金等収益の増加が見込まれます。

#### 4 偶発債務

##### (1) 保証債務及び損失補償債務負担の状況

団体 (会計名)	確定債務額	履行すべき額が確定していない 損失補償債務等		総額
		損失補償等引当金 計上額	貸借対照表 未計上額	
自治会	-	3.1 百万円	-	3.1 百万円

##### (2) 係争中の訴訟等

大阪地裁令和2年(ワ)第8101号 3.3 百万円

#### 5 追加情報

##### (1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

###### ① 一般会計等財務書類の対象範囲は次のとおりです。

一般会計

公共用地先行取得事業特別会計

母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計

###### ② 一般会計等と普通会計の対象範囲等の差異

差異なし

###### ③ 地方自治法第 235 条の 5 に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、当会計年度に係る出納整理期間(令和2年4月1日～令和3年5月31日)における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

###### ④ 各項目の金額を表示単位未満で四捨五入しているため合計等の金額が一致しない場合があります。

###### ⑤ 地方公共団体財政健全化法における健全化判断比率の状況

実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
-	-	△0.3	-

###### ⑥ 利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額

該当なし

###### ⑦ 繰越事業に係る将来の支出予定額

繰越明許費(一般会計) 1,516,683 千円

###### ⑧ 過年度修正等に関する事項

該当なし

(2) 貸借対照表に係る事項

① 売却可能資産の範囲及び内訳は、次のとおりです。

売却可能資産の範囲は、計画等で売却の方向性が示されている資産及び財産収入として予算措置がされている公共資産としています。

35件 1,188,074千円

ア 内訳

事業用資産 1,187百万円

土地 1,187百万円

物品 1百万円

令和3年3月31日時点における売却可能価額を記載しています。

② 減価償却累計額

事業用資産 65,251百万円

建物 64,985百万円

工作物 266百万円

船舶 -百万円

浮標等 -百万円

航空機 -百万円

その他 -百万円

インフラ資産 50,337百万円

建物 437百万円

工作物 49,900百万円

その他 -百万円

物品 1,420百万円

なお、有形固定資産の減価償却方法について、財務書類を作成するシステムが変更となったことに伴い、定額法（日割り）から定額法（月割り）に変更となりました。

この結果、本年度の期首残高における減価償却累計額が57百万円減少しています。

③ 減債基金に係る積立不足額

該当なし

④ 基金借入金（繰替運用）

歳計現金に不足が生じる場合、効率性を勘案の上、歳計現金への繰替運用を行っています。

財政調整基金 18億円

⑤ 地方交付税措置のある地方債のうち、将来の普通交付税の算定基礎である基準財政需要額に含まれることが見込まれる金額 75,016百万円

⑥ 地方公共団体の財政の健全化に関する法律における将来負担比率の算定要素は、次のとおりです。

標準財政規模 48,153百万円

元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額 5,874百万円

将来負担額 83,126百万円



充当可能基金額	26,471 百万円
特定財源見込額	19,847 百万円
地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額	75,016 百万円

- ⑦ 地方自治法第 234 条の 3 に基づく長期継続契約で貸借対照表に計上されたリース債務金額  
該当なし
- ⑧ 管理者と所有者が異なる指定区間外の国道や指定区間の一級河川等及び表示登記が行われていない法定外公共物は次のとおりです。なお、当該資産は貸借対照表の資産に計上されません。  
該当なし
- ⑨ P F I 事業に係る資産  
該当なし

- (3) 行政コスト計算書に係る事項  
該当なし

- (4) 純資産変動計算書に係る事項

純資産における固定資産等形成分及び余剰分（不足分）の内容

- ① 固定資産等形成分

固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金等を加えた額を計上しています。

なお、本年度の期首残高における貸借対照表の有形固定資産減価償却累計額が 57 百万円減少したことに伴い、純資産変動計算書の前年度末純資産残高が同額増加しています。

- ② 余剰分（不足分）

純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しています。

- (5) 資金収支計算書に係る事項

- ① 基礎的財政収支 5,637 百万円
- ② 既存の決算情報との関連性

	収入（歳入）	支出（歳出）
歳入歳出決算書	118,889 百万円	117,101 百万円
財務書類の対象となる会計の範囲の相違に伴う差額	33 百万円	26 百万円
前年度末資金残高	1,924 百万円	-
資金収支計算書	116,998 百万円	117,127 百万円

地方自治法第 233 条第 1 項に基づく歳入歳出決算書は「一般会計」を対象範囲としているのに対し、資金収支計算書は「一般会計等」を対象範囲としているため、歳入歳出決算書と資金収支計算書は一部の特別会計（公共用地先行取得事業特別会計、母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計）の分だけ相違します。

- ③ 資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額との差額の内訳

資金収支計算書

業務活動収支 8,166 百万円

投資活動収入の国県等補助金収入	1,363	百万円
未収債権額の増加（減少）	162	百万円
未払債務額の増加（減少）	-	百万円

...

固定負債の減	0	百万円
出資金の減	△0	百万円
その他流動資産の増加（減少）	-	百万円
その他流動負債の増加（減少）	-	百万円
減価償却費	△3,918	百万円
賞与等引当金の増減	29	百万円
退職手当引当金の増減	494	百万円
徴収不能引当金の増減	△174	百万円
資産除売却益（損）	23	百万円
損失補償引当金の増減	0	百万円
財務活動収入のその他収入	21	百万円

...

純資産変動計算書の本年度差額 6,166 百万円

④ 一時借入金

資金収支計算書上、一時借入金の増減額は含まれていません。

なお、一時借入金の限度額及び利子額は次のとおりです。

一時借入金の限度額	11,120	百万円
一時借入金に係る利子額	1	百万円

⑥ 重要な非資金取引

該当なし

# 投資及び出資金の明細

(令和 3年 3月 31日現在)

決算対象年度: 令和02年度

市場価格のあるもの

(単位: 円)

銘柄名	株数・口数など (A)	時価単価 (B)	貸借対照表計上額 (A) × (B) (C)	取得単価 (D)	取得原価 (A) × (D) (E)	評価差額 (C) - (E) (F)	(参考)財産に関する 調書記載額
			0		0	0	
			0		0	0	
			0		0	0	
合計	0	0	0	0	0	0	0

市場価格のないもののうち連結対象団体(会計)に対するもの

(単位: 円)

相手先名	出資金額 (貸借対照表計上額) (A)	資産 (B)	負債 (C)	純資産額 (B) - (C) (D)	資本金 (E)	出資割合(%) (A) / (E) (F)	実質価額 (D) × (F) (G)	投資損失引当金 計上額 (H)	(参考)財産に関する 調書記載額
アドバンス寝屋川マネジメント株式会社	144,000,000	1,256,350,503	697,788,840	558,561,663	400,000,000	36.00%	201,082,199	0	144,000,000
水道事業会計	1,868,873,000	22,586,676,462	11,611,421,241	10,975,255,221	1,868,873,000	100.00%	10,975,255,221	0	記載なし
下水道事業会計	4,017,252,328	83,560,914,439	68,976,641,423	14,584,273,016	4,017,252,328	100.00%	14,584,273,016	0	記載なし
合計	6,030,125,328	107,403,941,404	81,285,851,504	26,118,089,900	6,286,125,328	95.93%	25,054,440,885	0	144,000,000

※株式会社以外の法人は資本金がないため、「資本金(E)」以外についてご記載ください。この場合、出資割合については、地方自治法施行令第140条の7の規定による割合を記載します。

市場価格のないもののうち連結対象団体(会計)以外に対するもの

(単位: 円)

相手先名	出資金額 (A)	資産 (B)	負債 (C)	純資産額 (B) - (C) (D)	資本金 (E)	出資割合(%) (A) / (E) (F)	実質価額 (D) × (F) (G)	強制評価減 (H)	貸借対照表計上額 (A) - (H) (I)	(参考)財産に関する 調書記載額
大阪湾広域臨海環境整備センター	300,000	43,493,348,908	27,765,342,191	15,728,006,717	136,900,000	0.22%	34,466,048	0	300,000	300,000
公益財団法人大阪府暴力追放推進センター	4,100,000	2,410,785,195	10,427,486	2,400,357,709	1,900,000,000	0.22%	5,179,719	0	4,100,000	4,100,000
一般財団法人大阪府地域福祉推進財団	1,470,000	1,736,170,935	83,414,163	1,652,756,772	458,000,003	0.32%	5,304,700	0	1,470,000	1,470,000
一般財団法人大阪建築防災センター	500,000	917,427,503	120,250,161	797,177,342	24,000,000	2.08%	16,607,861	0	500,000	500,000
公益財団法人大阪みどりのトラスト協会	290,000	339,986,573	39,789,138	300,197,435	285,324,955	0.10%	305,116	0	290,000	290,000
公益財団法人大阪人権博物館	101,135	6,423,148	300,668	6,122,480	5,650,000	1.79%	109,592	0	101,135	101,135
一般財団法人アジア・太平洋人権情報センター	1,515,448	482,373,631	10,671,330	471,702,301	324,187,666	0.47%	2,205,020	0	1,515,448	1,515,448
地方公共団体金融機構	15,000,000	24,857,606,000,000	24,516,985,000,000	340,621,000,000	16,602,000,000	0.09%	307,752,982	0	15,000,000	15,000,000
合計	23,276,583	24,906,992,515,893	24,545,015,195,137	361,977,320,756	19,736,062,624	0.12%	426,913,681	0	23,276,583	23,276,583

# 基金の明細

(令和 3年 3月31日現在)

決算対象年度:令和02年度

(単位:円)

種類	現金預金	有価証券	土地	その他	合計 (貸借対照表計上額)	(参考)財産に関する 調書記載額
公園墓地管理基金	427,777,970				427,777,970	400,452,214
公共公益施設整備基金	4,167,662,568				4,167,662,568	3,620,136,272
交通遺児激励基金	41,343,436				41,343,436	40,687,953
福祉基金	539,243,001				539,243,001	530,779,122
教育振興基金	81,719,196				81,719,196	79,842,773
職員退職手当基金	680,498,856				680,498,856	680,498,856
減債基金	1,995,829,216				1,995,829,216	695,748,069
国際交流基金	119,033,873				119,033,873	119,023,873
緑化基金	40,754,881				40,754,881	40,245,262
財政調整基金	13,887,721,571				13,887,721,571	11,666,003,605
淀川左岸農業用用水管理基金	428,387,939				428,387,939	428,387,939
第二京阪道路環境監視施設維持管理基金	205,622,946				205,622,946	213,766,373
文化振興基金	59,047,931				59,047,931	61,553,549
安全・安心なまちづくり対策基金	282,625,845				282,625,845	320,501,760
くらし・笑顔創生基金	1,058,078,114				1,058,078,114	1,215,048,968
森林環境基金	28,332,065				28,332,065	28,332,065
合計	24,043,679,408	0	0	0	24,043,679,408	20,141,008,653

# 貸付金の明細

(令和 3年 3月31日現在)

決算対象年度:令和02年度

(単位:円)

相手先名または種別	長期貸付金		短期貸付金		(参考) 貸付金計
	貸借対照表計上額	徴収不能引当金 計上額	貸借対照表計上額	徴収不能引当金 計上額	
地方公営事業					
一部事務組合・広域連合					
地方三公社					
第三セクター等					
アドバンスねやがわ管理(株)貸付金	512,360,000				512,360,000
その他の貸付金					
同和更生資金貸付金	86,520	22,409	0	0	86,520
寝屋川市生活つなぎ資金貸付金	0	0	233,000	119,995	233,000
母子父子寡婦福祉資金貸付金	203,654,536	0	23,632,780	0	227,287,316
合計	716,101,056	22,409	23,865,780	119,995	739,966,836

# 長期延滞債権の明細

(令和 3年 3月 31日現在)

決算対象年度: 令和02年度

(単位: 円)

相手先名または種別	貸借対照表計上額	徴収不能引当金 計上額
<b>【貸付金】</b>		
第三セクター等		
その他の貸付金		
生活つなぎ資金貸付金	6,482,191	3,338,894
母子父子寡婦福祉資金貸付金	14,944,735	0
小計	21,426,926	3,338,894
<b>【未収金】</b>		
税等未収金		
市民税	56,619,395	14,864,487
固定資産税	307,125,266	115,251,735
軽自動車税	17,181,401	7,008,235
都市計画税	76,470,249	28,032,517
その他の未収金		
生活保護法返還金	548,913,993	102,439,144
保育所保育料等	19,700,894	2,491,548
住宅使用料	37,692,285	0
その他	45,564,188	10,360,652
小計	1,109,267,671	280,448,318
合計	1,130,694,597	283,787,212

# 未収金の明細

(令和 3年 3月31日現在)

決算対象年度:令和02年度

(単位:円)

相手先名または種別	貸借対照表計上額	徴収不能引当金 計上額
<b>【貸付金】</b>		
第三セクター等		
その他の貸付金		
生活つなぎ資金貸付金	150,000	77,263
母子父子寡婦福祉資金貸付金	1,640,579	0
小計	1,790,579	77,263
<b>【未収金】</b>		
税等未収金		
市民税	279,052,923	73,260,734
固定資産税	179,037,326	67,185,493
軽自動車税	6,681,660	2,725,426
たばこ税	8,196	0
入湯税	1,312,575	0
都市計画税	36,310,640	13,310,780
その他の未収金		
生活保護法返還金	40,851,757	7,623,816
保育所保育料等	5,327,880	758,035
住宅使用料	703,100	0
その他	14,105,581	4,057,483
小計	563,391,638	168,921,767
合計	565,182,217	168,999,030

# 地方債（借入先別）の明細

(令和 3年 3月 31日現在)

決算対象年度: 令和02年度

(単位: 円)

種類	地方債残高		政府資金	地方公共団体 金融機構	市中銀行	その他の 金融機関	市場公募債	うち共同発行債		うち住民公募債	その他
		うち1年内償還予定									
【通常分】											
一般公共事業	4,466,833,197	289,985,564	1,581,509,207	1,093,204,173	1,318,997,224	473,122,593					
公営住宅建設	532,425,924	13,973,672	11,254,129	464,384,899		56,786,896					
災害復旧											
教育・福祉施設	11,109,418,631	913,296,257	2,985,599,296	4,109,298,071	3,254,523,981	759,997,283					
一般単独事業	5,134,784,473	1,277,646,412	112,126,568	2,142,173,889	1,413,160,458	1,467,323,558					
その他	1,747,959,570	493,553,404	777,420,367	970,539,203							
【特別分】											
臨時財政対策債	35,431,675,234	2,621,425,678	15,076,644,381	18,822,409,716	924,913,545	607,707,592					
減税補てん債	458,289,350	139,243,255	78,528,758			379,760,592					
退職手当債	40,500,000	40,500,000			40,500,000						
その他	3,123,392,502	159,396,978	693,497,890	1,033,856,180	1,034,362,262	347,748,969					13,927,201
合計	62,045,278,881	5,949,021,220	21,316,580,596	28,635,866,131	7,986,457,470	4,092,447,483	0	0	0	0	13,927,201



## 地方債（利率別）の明細

（令和 3年 3月31日現在）

決算対象年度：令和02年度

（単位：円）

地方債残高	1.5%以下	1.5%超 2.0%以下	2.0%超 2.5%以下	2.5%超 3.0%以下	3.0%超 3.5%以下	3.5%超 4.0%以下	4.0%超	(参考) 加重平均 利率
62,045,278,881	57,677,316,537	3,550,585,590	624,795,249	57,309,388	39,748,100	1,106,813	94,417,204	0.92%

## 地方債（返済期間別）の明細

（令和 3年 3月31日現在）

決算対象年度：令和02年度

（単位：円）

地方債残高	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超 15年以内	15年超 20年以内	20年超
62,045,278,881	5,949,021,220	5,578,914,556	5,327,760,494	5,183,592,842	4,876,963,582	21,729,744,783	10,113,670,113	2,947,339,024	338,272,267

## 特定の契約条項が付された地方債の概要

（令和 3年 3月31日現在）

決算対象年度：令和02年度

（単位：円）

特定の契約条項が 付された地方債残高	契約条項の概要
0	該当なし

※特定の契約条項とは、特定の条件に合致した場合に、支払金利が上昇する場合等をいいます。

# 引当金の明細

(令和 3年 3月31日現在)

決算対象年度:令和02年度

(単位:円)

区分	前年度末残高	本年度増加額	政府資金	本年度減少額		本年度末残高
				目的使用	その他	
固定資産						
投資損失引当金	0	0	0	0	0	0
徴収不能引当金	240,202,721	115,026,851	0	71,419,951	0	283,809,621
流動資産						
徴収不能引当金	110,164,746	58,954,279	0	0	0	169,119,025
固定負債						
退職手当引当金	7,184,288,836	268,894,340	0	763,123,040	0	6,690,060,136
損失補償等引当金	3,423,754	0	0	0	321,948	3,101,806
流動負債						
賞与等引当金	749,054,166	720,128,479	0	749,054,166	0	720,128,479
合計	8,287,134,223	1,163,003,949	0	1,583,597,157	321,948	7,866,219,067

# 補助金等の明細

(自 令和 2年 4月 1日 至 令和 3年 3月31日)

決算対象年度: 令和02年度

(単位: 円)

区分	名称	相手先	金額	支出目的
他団体への公共施設等整備補助金等 (所有外資産分)	京阪本線連続立体交差事業負担金	大阪府	606,750,000	京阪本線連続立体交差事業に対する寝屋川市の経費負担
	計		606,750,000	
その他の補助金等	特別定額給付金	住民基本台帳に記録されている人	23,056,961,000	新型コロナウイルス感染症緊急経済対策
	枚方寝屋川消防組合負担金	枚方寝屋川消防組合	2,711,153,000	一部事務組合に対する寝屋川市の経費負担
	下水道事業会計負担金	下水道事業会計	1,539,268,964	収益的収支における維持管理費に係る経費負担
	民間保育所等に対する運営等補助金	民間保育所等	564,706,229	民間保育所等の運営に対する支援等
	下水道事業会計出資金	下水道事業会計	515,837,376	収益的収支における維持管理費に係る経費負担
	水道料金(基本料金)免除負担金	水道事業会計	457,432,270	新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う支援(水道料金の基本料金の免除)に要した経費負担
	休業要請支援金(府市共同支援金)	大阪府	214,000,000	大阪府と共同で実施する事業に対する寝屋川市の経費負担
	社会福祉協議会事業補助金	社会福祉協議会	141,047,553	社会福祉協議会が実施する事業に対する支援等
	待機児童ZEROプランR推進事業	民間保育所等	119,857,592	民間保育所等における保育士確保に対する支援等
	民間保育所等給食費補助金	民間保育所等	117,983,661	新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う支援(給食費の返還及び無償化)に要した経費負担
	軽費老人ホーム事務費補助金	軽費老人ホームを運営する社会福祉法人	113,699,600	軽費老人ホームの入居者の利用料を軽減するため
	北河内4市リサイクル施設組合負担金	北河内4市リサイクル施設組合	109,386,061	一部事務組合に対する寝屋川市の経費負担
	その他		3,402,589,133	
	計		33,063,922,439	
合計		33,670,672,439		

# 財源の明細

(自 令和 2年 4月 1日 至 令和 3年 3月31日)

決算対象年度: 令和02年度

(単位: 円)

会計	区分	財源の内容	金額	
一般会計等	税収等	市税	28,946,151,784	
		地方譲与税	350,976,000	
		利子割交付金	40,584,000	
		配当割交付金	171,871,000	
		株式等譲渡所得割交付金	194,470,000	
		法人事業税交付金	117,127,000	
		地方消費税交付金	4,625,708,000	
		自動車取得税交付金	8,222	
		環境性能割交付金	59,966,000	
		地方特例交付金	206,314,000	
		地方交付税	13,592,654,000	
		交通安全対策特別交付金	35,401,000	
		分担金及び負担金	387,390,583	
		寄附金	43,885,847	
	その他	0		
	小計		48,772,507,436	
	国県等補助金	資本的補助金	国庫支出金	999,533,000
			府支出金	362,969,000
		計		1,362,502,000
		経常的補助金	国庫支出金	48,001,901,559
			府支出金	6,620,364,430
		計		54,622,265,989
	小計		55,984,767,989	
	合計		104,757,275,425	

## 財源情報の明細

(自 令和 2年 4月 1日 至 令和 3年 3月31日)

決算対象年度:令和02年度

(単位:円)

区分	金額	内訳			
		国県等補助金	地方債	税収等	その他
純行政コスト	98,591,371,613	54,622,265,989	3,616,550,000	40,198,060,043	154,495,581
有形固定資産等の増加	4,484,236,054	1,362,502,000	1,993,800,000	1,096,704,006	31,230,048
貸付金・基金等の増加	8,247,319,888	0	77,089,000	7,477,743,387	692,487,501
その他	0	0	0	0	0
合計	111,322,927,555	55,984,767,989	5,687,439,000	48,772,507,436	878,213,130

# 資金の明細

(令和 3年 3月31日現在)

決算対象年度:令和02年度

(単位:円)

種類	本年度末残高
現金	
要求払預金	1,794,854,713
短期投資	
合計	1,794,854,713